

尻無川河川広場にぎわい創造拠点 整備・管理運営事業にかかる宿泊施設について

大阪市大正区

1. 事業実施エリアの概要

年間約200万人を超える集客エリア

利便性の高い交通網

市営地下鉄や市バス、JRの駅が集中し、各ターミナル駅や都心部からのアクセスも抜群

大型集客施設

京セラドーム大阪をはじめ、イオンモールやホームセンター、大阪ガスハグミュージアムなどの大型集客施設があり、年間を通して賑わう



2. 取組の背景とこれまでの経過

<背 景>

■ 止まらない人口減少と都市経済活動の衰退

- ・ 人口：81,269人（平成2年）⇒64,763人（平成28年10月）（約2割減）
- ・ 区内商品販売額：2,816億円（平成9年）⇒2,035億円（平成19年）（約3割減）

<経 過>

人口減少と都市経済活動の衰退に歯止めをかけるために・・・

- ・ 一時的なにぎわいではなく、恒常的なにぎわいの創造・創出が必要
- ・ 当区の玄関口であり貴重な地域資源である尻無川河川広場に着目



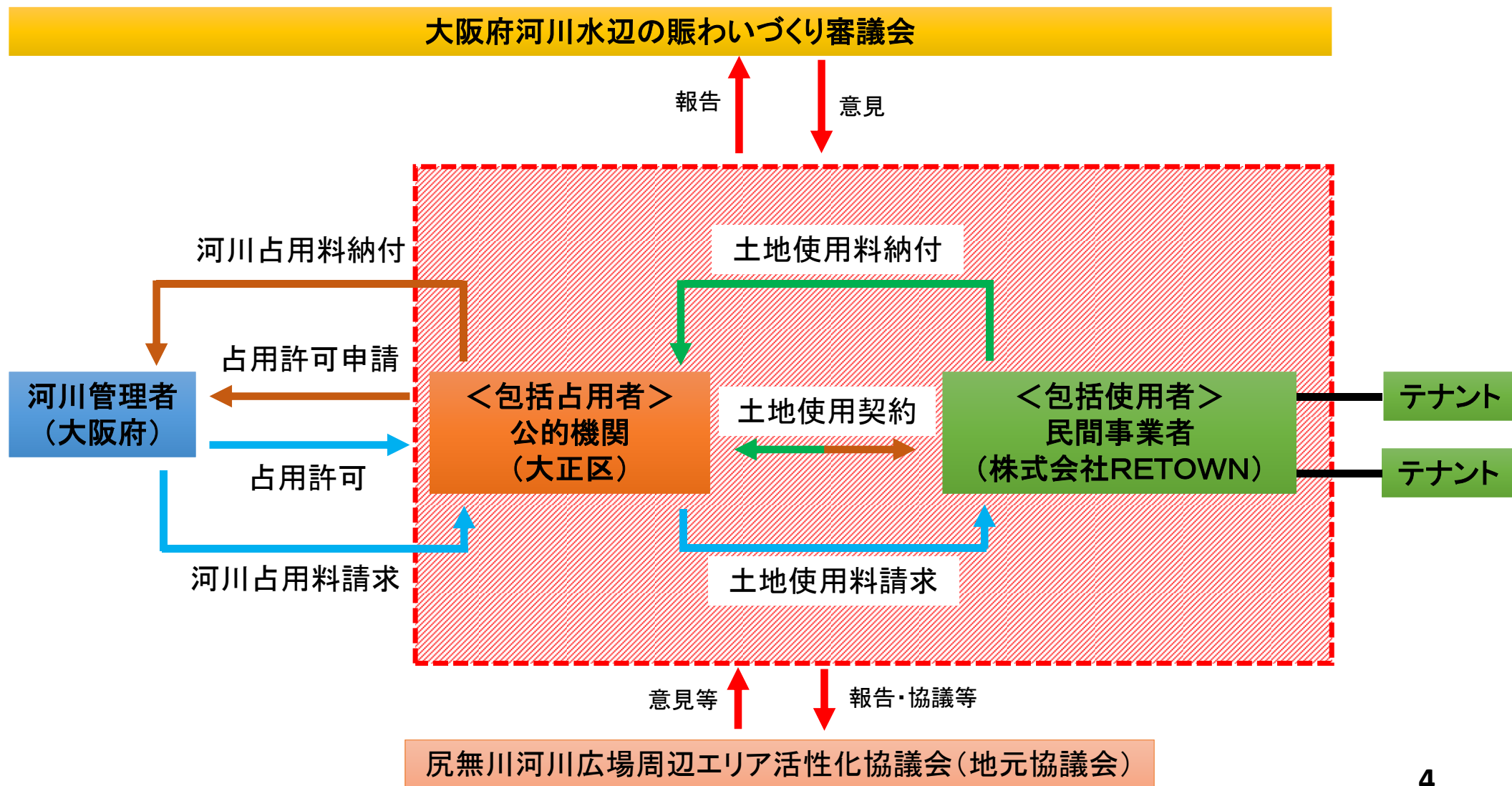
尻無川河川広場（東側から西側を望む）

➡ 「尻無川河川広場にぎわい創造拠点整備・管理運営事業」

平成26年12月24日	尻無川河川広場周辺エリア活性化協議会（※1） 設立
平成27年 2月23日	都市・地域再生等利用区域 指定
平成27年 6月 7日	社会実験事業「Taishoリバービレッジ」開催（～10月18日）
平成28年 3月31日	大正区尻無川河川広場エリア活性化プラン 策定
平成28年 4月 1日	尻無川河川広場にぎわい創造拠点整備・管理運営事業 実施
平成28年 9月30日	拠点整備・管理運営事業予定者（株式会社RETOWN） 決定

※1 尻無川河川広場周辺エリア活性化協議会とは、尻無川河川広場を中心とした周辺エリアの再生等の事業について、地域の意を図るとともに、事業推進に必要な手続き等を行うために設置。地域振興会長や地元商店会長等を構成メンバーとしている。

3. 事業スキーム



4. にぎわい創造拠点整備・管理運営事業 事業概要

<コンセプト>

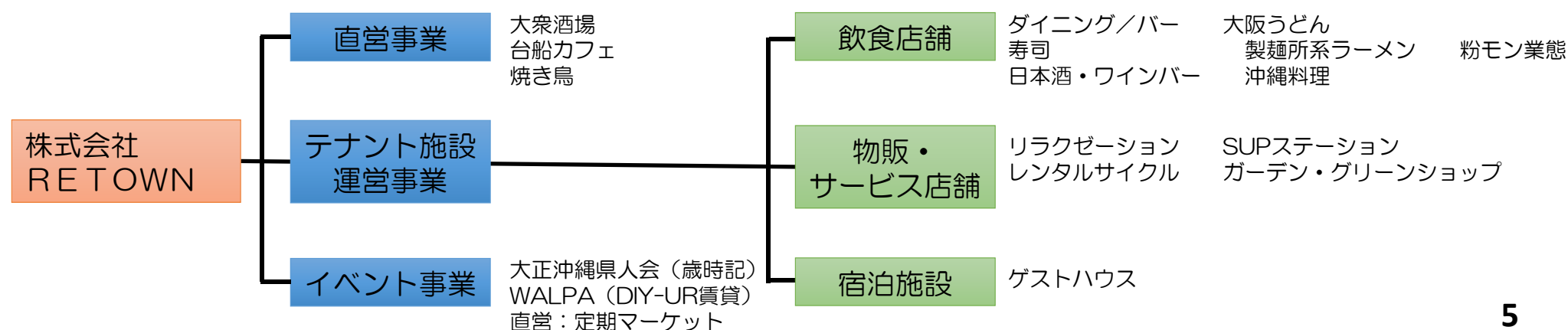
➤ 地域に愛され続ける水辺拠点である

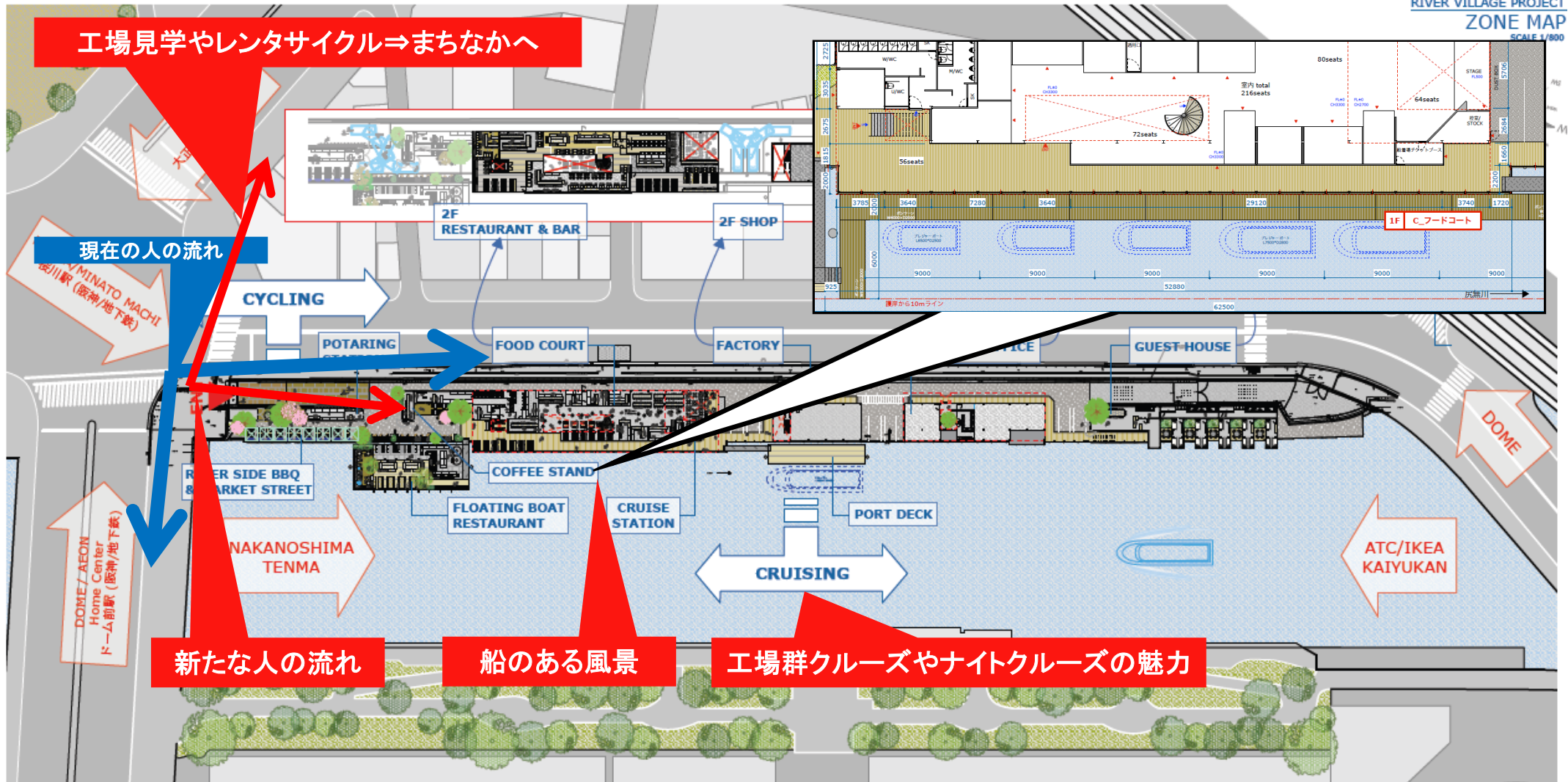
- ・土着感のあるローカルな雰囲気を持つ“大正区らしい”拠点
- ・大正区民が知人・友人を連れてきたくなる場所へ
- ・思いを同じくする大正区内の個人や団体が集まる場所へ

➤ 1割の感度の高い客層を魅了し続ける

- ・ファンがファンを呼ぶ仕組み
- ・“みんな”に向けた事業展開ではなく、大正区の魅力が伝わる多くの“ファン”をつくりだす
- ・常にオンネットで行動派・ローカル志向層（＝1割の感度の高い客層）が“最初のファン”

<運営(案)の概要>





様々な大正区の魅力を満喫



5. 宿泊施設について

- 船で訪れる方が、ゆっくりと滞在することが出来ると同時に他にはあまり見られない朝の水辺の魅力も堪能してもらうというコンセプトから、水辺での宿泊施設及び係留施設の設置を行う必要がある。
- 宿泊者の様々な船が停泊している朝の光景が、また新たなまちの魅力となり、通勤の方や、その他更に多くの方々がその魅力に惹きつけられる。

⇒このような理由から宿泊施設は水辺の賑わい創造に必要な施設であると考える。



平成29年3月14日 尻無川河川広場周辺エリア活性化協議会を開催し、宿泊施設の設置について諮問

○委員からの主な意見

- 宿泊することにより、水辺への滞在時間を増加させ、水辺の魅力をより認識できる機会が提供できる。
- これまで素通りされていたところに人を長く引き止めるため「宿泊施設」は重要
- 舟運事業との連携により、USJへ船でいくという魅力もあるため、逆にUSJの宿泊客も取り込むことが出来る。
- 宿泊施設があることにより、周辺の飲食店への波及効果も望める。

6. 宿泊施設にかかる安全対策について

安全に関する対策について河川管理者と相談しながら、以下のような対策を講じていきます。

○安全対策マニュアルの作成

- 区役所と事業者とで非常時に対応できる連絡体制を構築し、大雨・洪水警報が発令され、河川敷に浸水が予測される場合等の避難誘導にかかる応援体制の設定
- **webカメラ等**による監視体制の構築
- 避難経路の設定
- 近隣に一時避難先の設定
- その他必要事項の設定

○定期的な訓練や事業者教育の徹底

○ライフジャケット等の設置と宿泊者への使用方法の周知

○占用者及び事業者との安全に関する確認会議の設置

○その他必要な措置

【安全計画書の内容】

		事業者	占有者
平 常 時		- 量水標、Webカメラ等の設置 - 救命胴衣、浮環の設置 - 定期的な訓練	定期的な訓練、事業者教育の実施
台風接近時		大阪に台風による影響が予測される前日に、営業中止の判断	
気象予警報の発令	津波警報	避難誘導を実施	
	(大雨・洪水・高潮) 警報	- 現地に待機 - 水位、降雨の状況監視 - 避難誘導の準備	- 現地等に待機 - 水位、降雨の状況監視 - 避難場所受け入れ準備
	大津波警報 特別警報 等	- 避難誘導を実施 - 占有者への連絡 (避難開始及び完了の連絡)	- 避難誘導を支援 - 河川管理者への通報 (避難開始及び完了の連絡等)
OP+3.0mに達し、なおも水位上昇が見込まれる場合の対応		- 避難誘導を実施 - 占有者への連絡 (避難開始及び完了の連絡)	- 避難誘導を支援 - 河川管理者への通報 (避難開始及び完了の連絡等)

**三軒家西地域
津波避難マップ**

凡例

- 津波避難ビル (大阪市指定)
- 津波避難ビル (地域協定)
- 公園
- 主要道路
- 学校
- 町境界線
- 防火スピーカー

■周辺の津波避難拠点施設

名称	所在地	収容人数
A 京セラドーム大阪 周辺デッキ	西区千代崎3-2外	9,000人
B イケテ横浜	大正区額田2-24-55	28,000人

■津波避難ビル一覧

津波避難ビル名称	避難可能人数	対象地域
① 三軒家西小学校	542人	
② 大正東中学校	1,366人	
③ 大阪動植物海洋専門学校	390人	三軒家西第一会
④ ほくとクリニック	70人	三軒家西第四会

平成25年3月現在

1 (分以上揺れたら) 3 (階以上の建物に) 6 (時間以上待機)
運動の展開

※海抜は全国の標高の基準となる海水面からの高さです。

この地図の作成に当たっては、国土地理院等の承諾を得て、国産院の基礎地図情報を使用しました。(承認番号 平24第幾 第631号)

水防碑

災害は
忘れたころに
やってくる